
投 稿 規 定

(平成29年11月10日より適用)

本誌「医療」は国立医療学会の機関誌であり、国立高度専門医療研究センター、国立ハンセン病療養所、独立行政法人国立病院機構を中心に医学関連の学術論文や情報、政策医療に関連する意見や最新情報を広く掲載する。かつ、国民に開かれた雑誌であるべきとの見地から一般の機関からの投稿も受けつける。

1. 本誌への投稿論文の筆頭著者は原則国立医療学会会員（正会員、賛助会員）でなければならない。しかし、編集委員会が依頼する原稿に関してはこの限りではない。
2. 本誌には学術論文と情報主体の論文が対象となるが、概ね以下のカテゴリーに分けて受けつける。ただし、他誌に掲載または投稿中のものは受けつけない。投稿時に二重投稿に当たらない旨の誓約書に著者全員が署名し提出すること。
 - (1) 原著：オリジナルデータを含む質の高い学術論文を採用する。
 - (2) 総説（解説、講義などを含む）：一定の視点、一定の論点を持ったレビューを採用する。時代のトピックス、あるいは厚生労働省関連の研究班における研究成果を一般国民向けに解説する記事なども歓迎する。本誌読者が多職種よりなることから、できるだけわかりやすく解説することを旨とする。
 - (3) 論説：医学・医療に関する高い識見、新しい考え方、倫理、経営、あり方等に関する意見を採用する。
 - (4) 報告：
 - ① 症例報告、短報・速報：オリジナルデータを含む学術論文であって、速報性のあるもの、一例報告、少数例の検討、有用な画像、有用な数値等を採用する。
 - ② 記録：国立病院機構等で実施する共同研究等のまとめ、総合医学会等シンポジウム等の記録などから採用する。
 - ③ 意見交換（意見、主張、誌上討論）、医療情報（情報と資料、施設紹介、研究室紹介、くすり紹介、図書紹介、研究会・研修会の案内、研究会抄録、その他、厚生労働省関連の学術情報 ならびに関連記事）：読者にとって有用な意見、情報を採用する。
 - (5) シリーズ記事：図説シリーズなどの、解説・紹介などを主体としたシリーズもの。
 - (6) 誌上討論：本誌に掲載された論文に対する討論やコメント。
 - (7) その他：学会・研究会案内や開催記録など。
3. 原稿作成の手引き
 - (1) 原稿は原則として日本語で、すべてA4判用紙にワードプロセッサで作成する。1行の文字数40字、1ページの行数20行として頁数を記入する。
 - (2) タイトル頁：タイトルページには標題（和・英）、著者名（和・英）、所属（和・英）、別刷請求先、別冊の希望部数、著者連絡先（電話・FAX番号、e-mail）を明記する。
 - (3) 要旨とキーワード（和・英）：800字以内で、論文の概要が具体的にわかるように書き、和・英のキーワード（3-5個）を重要な順に列記する。なお、原著においては英文抄録を添付することが望ましい。英文抄録はA4版用紙にダブルスペースで作成する。英文は適切に表現し、できるだけnativeチェックを受けることが望ましい。
 - (4) 倫理審査に関する記述：本誌の論文は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針、遺伝子治療臨床研究に関する指針、ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針等の倫理指針の最新版および個人情報保護法、行政機関個人情報保護法、独立行政法人個人情報保護法やヘルシンキ宣言の倫理綱領を遵守し、また、動物実験においては、動物福祉の精神に基づき倫理的なものでなければならない。上記倫理指針が適用されると考えられる論文には、各施設の倫理委員会の承認を得たことを明記すること。
 - (5) 利益相反に関する記述：本誌の論文では、利害関係が想定される企業等との関わり（利益相反）について、透明性が確保され、適正に管理されなければならない。このため、必要と考えられる論文には、利益相反状況を記載しなければならない。

- (6) 引用文献：引用文献は引用順に記載し、本文中では文献番号を著者または引用文の右肩に付記する。引用文献は、下記の例にならい、引用順に番号をふり、論文の最後一括する。著者名・論題・雑誌名・発行年（西暦）；巻：始頁－終頁。を記載する。すべての引用文献は論文中に引用されていなければならない。邦文雑誌名は医学中央雑誌、欧文雑誌名は Index Medicus (Medline) の省略方法に準じて引用する。文献引用スタイルは基本的には AMA style (JAMA の引用法) (JAMA 1997; 277: 927-34) を踏襲するが、著者の数が3名またはそれ以上の場合は3名までを列挙し、残りはほか (et al.) とする。
- (7) 図表の説明文：図と表の番号は、「図1、図2、表1、表2、」と表記する。写真の大きさは手札型とし、カラー写真は原則として取り扱わない。ただし、著者がその費用を負担すれば掲載することもある。図および写真は、番号と図題名を記載する。各図の挿入希望箇所を「本文」の右側欄外に朱書する。患者の写真を用いる場合は、個人が特定できないようにトリミングまたはマスクを施す。患者を特定できるような写真が必要な場合は、原則として承諾書のコピーを添付する。
- (8) 雑誌や単行本に発表された資料を転載する場合：著作権所有者の使用許可書のコピーを添付する。

4. 原稿の種類と書き方の指針

(1) 原稿の枚数・様式など：

- ① 総説、論説：要旨、本文は図・表、図表の説明、文献を含め、文字数は特に定めないが8,800字を目安とする。
- ② 原著、特集：本文は図・表、図表の説明、文献を含め8,800字以内とし、刷り上がり6頁以内とする（図表は1点につき、本文400字に換算する）。
- ③ 報告（症例報告、短報、図説シリーズ）、記録（総合医学会等シンポジウム記録、共同研究班報告）：本文は図・表、図表の説明、文献を含め5,600字以内とし、刷り上がり4頁以内とする（図表は1点につき、本文400字に換算する）。
- ④ 意見交換（意見、主張、誌上討論）、医療情報（施設紹介、研究室紹介、くすり紹介、図書紹介、研究会・研修会の案内、研究会抄録、その他厚生労働省関連の学術情報並びに関連記事）：本文1,600字、刷り上がり2頁以内を目安とする。
- ⑤ 誌上討論：本文、文献を合わせて800字以内とする。
- ⑥ その他：学会・研究会案内や開催記録などは編集委員会が認めたものを掲載する。

(2) 日本語および外国語の表記は、原則として、下記に準じる。

- ① 常用漢字、現代かなづかいを用いる。必要上、これらにない語を用いるときはルビを振る。
- ② 用語：日本医学会制定の用語を用いる。必要上、これらにない語を用いるときはルビを振る。
- ③ 外国語：日本語化している用語は、原則として、日本語を用いる。
- ④ 人名、地名、機器商品名などは、原語で記載する。固有名詞、ドイツ語名詞の頭文字は大文字とする。原語表記を必要とする一般語彙は、小文字を用いる（ただし、文頭の単語は頭文字を大文字とする）。略語は初出時にフルスペルとしてことわる。[例：myelin basic protein (MBP)]
- ⑤ 薬品名：薬品名は一般名を用いる。商品名が必要であれば、一般名の後に（……[®]）と併記する [例：マレイン酸チモロール（チモプトール[®]）]。
- ⑥ 数字：アラビア数字を用いる。算用単位符号は m, cm, cm², l, ml, g, mg, %, g/dl, °C などと書き、放射性同位元素符号は⁶⁰Co のごとく著わす。

5. 著作権 (copyright)

- (1) 本誌に掲載された全ての論文の著作権は、本会に帰属する。投稿にあたっては、論文の採択が決まった際は著作権譲渡に同意する旨の書類に、著者全員の署名が必要である。誓約書を使用し送付する。
- (2) 本誌掲載記事の転載・複写に関する手続き：本誌掲載記事を他の紙面に転載・複写するときは編集委員会の許可を得ること（転載許可願を使用）。

6. 論文掲載の採否

複数の査読者による審査結果をもとに編集委員会で決定する。

7. 付則（変動内容を含む事項の指針）

- (1) 原稿の送り先：原稿データおよび「医療」投稿添付用紙を原則 MS-Word 版を e-mail にて下記へ送信する。なお、「医療」編集室から受領の連絡が3営業日以内でない場合は筆頭筆者より確認すること。図表はそのまま掲載可能な品質のよいものであること。e-mail にて送付できない図表等は郵送すること。

なお、ファイル送付等にあたってのセキュリティ管理については著者が責任を持ってこれを行うこと。

〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1

独立行政法人国立病院機構東京医療センター内 「医療」編集室

Tel 03-5712-5058

Fax 03-5712-5088 (直通)

e-mail: iryogakkai@gmail.com

送信前に再度「医療」投稿添付用紙で確認すること。投稿規定で不明な点は編集室に問い合わせること。

- (2) 校正：著者校正は、原則として初稿のみとする。印刷ミスの訂正を主とし、字句の加筆、削除、変更は編集委員会に諮らず原文を修正できない。
- (3) 掲載料：投稿規定範囲内ものは掲載無料とする。ただし、前記規定以外のもので編集委員会にて掲載を認めたものは、超過料金を徴収する。
- (4) 二重投稿と判断された場合は論文の取り消し、投稿禁止等の対象とする。

参 考 資 料

文献引用の凡例

(1) 雑誌を引用する場合：

- ① [英文見本 (著者17名)] Gollob MH, Jones DL, Krahn AD et al. Somatic mutations in the connexin 40 gene (*GJA5*) in atrial fibrillation. *N Engl J Med* 2006 ; 354 : 2677-88.
- ② [和文見本・(著者1名)] 森松光紀 大脳基底核基底核変性症 (CBD) について. *医療* 2005 ; 59 : 455-60.
- ③ [研究グループが筆頭者の場合] The Euro Guidelines Group for HIV Resistance. Clinical and laboratory guidelines for the use of HIV-1 drug resistance testing as a part of treatment management: recommendation for the European setting. *AIDS* 2001 ; 15 : 309-20.
- ④ [学会抄録の引用] 花田亜希子, 立石敏樹, 米沢一也, 安在貞祐, 佐藤一義, 岩井光宏. 閉塞性動脈硬化症患者の冠動脈スクリーニングにおける MRI の有用性. In: 第33回日本磁気共鳴医学会大会講演抄録集, 東京, 9.28-10.1, 2005. *日磁気共鳴医学会誌* 2005 ; 25 (補遺) : 297抄録.

(2) 単行本を引用する場合：

- ① 個人又は複数の著者 (訳者) の場合] Smith SF, Duell DJ, Martin BC (川原礼子, 山内豊明, 山田知恵里訳). *看護技術一目で見る辞典一*. 初版. 東京: 西村書店; 2006.
- ② [章を引用する時] 松井真. 髄液の免疫モニタリング. In: 田中正美, 湯浅龍彦編. *21世紀の神経免疫学*. 東京: 医歯薬出版; 2001 : p 22-6.
- ③ [会議録あるいは報告書全体を引用する場合] 川井充編. *筋ジストロフィーとリスク・クライシス管理*. 厚生省精神・神経疾患研究委託費. 筋ジストロフィー患者のケアシステムに関する総合研究班「リスク管理とネットワーク」分科会. 2000.

(3) Web からの引用：web 情報は文献としては引用せず、本文中に web アドレスを記載する